農事組合法人 林ライス

1 現在の経営内容等

(1) 経営理念，キャッチフレーズ等

地域農業発展のために活動できる経営体を目指している。

(2) 栽培技術の特長

- 集落の農地を集約し，50ha規模を前提として整備された機械・施設を用いて近代的な大規模経営を展開。
- 乾田直播用の専用機（愛知県方式・V溝播種）を導入し，新たな栽培技術に取組む。
- 先端技術展開事業（H25～）で冬どり露地キャベツ栽培に挑戦。新しい移植機，半自動収穫機の操作方法を習得。

(3) 販売の特長

- 食用米は一部直接販売のために紙袋詰めも行うが，JAへの出荷は全量フレコンで行う。イベント等では自家精米して袋詰めしたものを販売。
- 一部備蓄米として商社に直接販売。
- 大豆は全量JA出荷。
- キャベツはJAを通して全農が販売。

(4) 経営組織の特長

- 移植水稲しか大規模栽培の経験がない中で不安を抱えながらも，とにかくやらなければならないという挑戦する姿勢が特長。
- 乾田直播，湛水直播，大豆栽培，露地キャベツの機械化栽培という新しい技術に取り組み，新しい法人に合った経営体制を模索中。

(5) 労務管理の特長

- 構成員が中心で作業をするが，農繁期には集落の「協力員」を雇用できる体制をつくっている。

(6) 経営管理の特長

- 構成員が作業で忙しい中でも，会計等の協力を得られる人材を構成員以外に確保している。

(7) その他の特長

- 法人経営1年目にして，「復興感謝祭」を開催し，そのお知らせとともに地域に情報紙を配布。「地域とともに…」という理念を発信。

2 これまでの経過

(1) 法人化するまでの特徴的な歩み

地域全体が被災し，離農を希望する人も多かった。担い手を確保するため，地域で話し合いが重ねられた。集落の農地を担っていくために組織を立ち上げた5名のうち，3名は同級生。残る2名も同世代でもともと交流があった。

以前は個別で専業・兼業農家をしており協業の経験はなかったが，除塩農地での営農再開を前に法人化して地域農地の受け皿としての体制を迅速につくりあげる必要があった。岩沼市，県担い手育成総合支援協議会，亘理農業改良普及センター等の支援を受けながら，時間がない中で法人化に向けた話し合いを行い，法人化の勉強会に参加して準備を進めた。

(2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過，法人化後の変化

除塩した広大な農地を担っていくためには法人化の必要があった。東日本大震災復興交付金を活用して機械・設備を整備し，大規模経営ができる体制を整えた。

法人化後は，構成員同士が連携して作業を行い，今まで取り組んだことのなかった大規模経営を行っている。後継者につなぐために，所得向上を目指す取組が続けられている。

3 今後に向けて

(1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

構成員の年齢層が高いので，後継者を確保する必要がある。地域には候補者もいるので，経営を安定させて若い世代を雇用できる体制を整えたい。

(2) 今後に向けての経営戦略

規模拡大が基本。大規模経営に対応できるようにノウハウを蓄積していく。

（調査：亘理農業改良普及センター）

経営のプロフィール

農業地帯	平地農業地域
組織形態	オペレーター型
エリア	複数集落
農地集積率	46%

経営概要

・水稲（42ha）
・大豆（13ha）
・キャベツ（1ha）

主な施設・機械の保有

なし
（復興交付金事業で水稲，大豆生産に必要な施設・機械が貸与されている）

構成員等

構成員5名

法人設立年月日

平成25年2月18日

認定農業者認定年月日

平成25年2月28日

出資金又は資本金

200万円

役員名

代表理事：田村 善洋
理事：大内 正男，渡邉 正
監事：田村 家五朗，相原　英二

主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

平成25年東日本大震災復興交付金（機械・施設整備）

略図

農事組合法人林ライス
岩沼市押分字北土手81番4号
TEL　0223－23－1781（FAX兼用）

視察受入条件

要相談